

2014年8月19日

産業構造審議会製造産業分科会への意見

株式会社堀場製作所
代表取締役社長 堀場 厚

第2回製造産業分科会に向けて当方の意見を以下に纏めましたので、分科会における議論の参考にさせていただければ幸いです。

1 電力について

事業を営む立場からは電力の安定供給確保が極めて重要。2003年の北米北東部大停電や、2011年の関東における計画停電のような事態は決して起こさないような対応が必須。

また、電力料金の高騰も事業者にとっては問題。事業者として、ベースコストとして負担しなければならない電力料金の高騰には苦慮しており、全ての製造業に等しく固定費的に課せられる電力料金の負担が少しでも軽減されることが大事ではないか。（なお、日本の電力料金は世界的に見ても高額であり、例えば、米国テキサス州の産業用電力単価は我が国の約3分の1となっている。）

2 俯瞰的な議論の必要性について

近年、原発問題も絡んで、セキュリティ、価格、温暖化対策など、エネルギーに関連する議論が活発化している。しかし、メディアを含めて、全体を俯瞰した議論がなされていないと感じている。

この傾向はエネルギー分野にとどまらず、他の多くの重要な課題（TPP問題、規制緩和など）においてもみられる。

本分科会においては、個々の企業や特定部門の専門家の意見を聞くだけでなく、全体を俯瞰して取りまとめる機能を期待。

例えば、自動車については、動力源としてハイブリッドか電気モーターか燃料電池かと言った個別技術の優劣のみではなく、一次エネルギーから社会インフラを含む運用方法や機器のライフサイクルアセスメントなど、技術全体を俯瞰して最適な解を見つける努力が必要。